



越前屋俵太

1961年京都市生まれ

1983年、関西大学在籍中にアルバイトADとして参加した関西の深夜テレビ番組で、それまで当たり前とされていた事前構成型番組演出ではなく、その場で考え、その場で仕掛け、その場で起こった事を、そのまま映像に記録するという、インプロヴィゼーション的演出方法を考案、自らが実演し、当時のテレビ番組制作の常識を根底から覆した。

街を舞台に仕掛ける過激なパフォーマンスが大阪の若者を中心に話題となり、関西で人気が発火、その後、単身東京に進出。

ビートたけしさんの元で、唯一軍団に入らず修行。結果、他に類を見ない唯一無二の存在として以後20年間に渡り、どこの芸能プロダクションにも所属せずにテレビに出演し続けるという、見ている人にはまったく関係のない事に拘り続ける。

「限りなく計算し尽くされた笑い」より「限りなく偶然に起こる笑い」を追究した。言い換えれば、最初から笑わせる事を意識しているプロの芸ではなく、そんなことを生業としない人たちが繰り広げる無心の笑いだから、結果死ぬほど面白いんだ！という、究極のアマチュアリズムを貫こうとした。

しかし、ある時、経験を積む度に自分がどんどん正しくプロ化していく事に気づいてしまい、このままではいけないと、ついに11年前「獅子の子が突き落とされてもいないのに、千尋の谷に、敢えて自分から飛び込む」という超ウルトラ自虐作戦を決行。一切の仕事を捨て、京都の山奥に引き籠る事となる。

その結果、わかっていたとはいえ、当然、自らのチカラで千尋の谷から這い上げられるはずもなく、すぐに生活資金の底が付き、普通であれば悠々自適あったはずの50歳を過ぎた今も、京都大学や関西大学で延べ5000人以上の学生を社会に送り出しているにもかかわらず、自分はまだ社会復帰が出来ないという、本末転倒、痛快無比、無芸大食の日々が続いている。

オモロジカルシンキングのすすめ

デザインする

「おもしろい」を

講師

越前屋俵太氏

7月28日(木) 6限

(16:45 - 18:00)

5C 216 階段教室

どなたでも聴講できます

科研「地域資源を基盤とする創造的復興とレジリエンス力強化に関する実践研究」講演

司会：芸術系長 山中敏正

世話人：山本早里 (内 2836) y-sari@geijutsu.tsukuba.ac.jp